

「ストロベリー・サンドイッチ」

登場人物

和子（20） 大学生

鉄雄（27） 大学生

壘（21） 大学生、和子の彼氏

女子大生A、B

○大学・食堂・中

和子（20）、机の上に肘をついて、窓際の席の男を見ている。

鉄雄（27）、苺のサンドイッチを食べている。

鉄雄の机の上には未開封の苺のサンドイッチが二つ置かれている。

墨（21）、和子の正面の席に座る。

墨「お待たせー」

和子「……（墨の方を見ず）」

墨「和子？」

和子「墨くんってさ。甘いサンドイッチ食べれる？」

墨「え。いっぱいは無理かな」

墨、和子の視線の方向を向く。

鉄雄、無心にサンドイッチを食べている。

墨「あいつ変人だから見ない方がいいよ」

和子「……（墨の方を向いて）」

墨「めっちゃ留年してるし、人と話してるの見たことないや」

和子「ごめん。別れよっか」

壘「……は？」

和子「（笑顔で手を振って）バイバイ」

和子、席を立つ。

○同・ベンチ前（翌日）

鉄雄、ベンチに座って、苺のサンドイッチを食べている。

○同・二階階段

和子、両肘をついて、鉄雄を眺めている。

女子大生AとB、上の階から降りてくる。

女子大生A「和子ちゃん、何してんの？」

女子大生B「鉄雄くんと一緒にやないの？」

和子「（女子大生たちを見ず）別れたー」

女子大生AとB、気まずそうに和子から離れる。

和子、スマホのカメラをズームする。

× × ×

スマホのカメラ画面。

鉄雄、苺のサンドイッチを食っている。

× × ×

和子、カメラのシャッターを押す。

○和子家・リビング（数日後）

和子、ソファに座っている。

手元のガイドブックをめくる。

本には苺の品種が十数種類載っている。

和子「とちおとめ……べにほっぺ……スカイベ

リー……」

和子、ソファの上の赤ペンを取り、ガイ

ドブックにチェックする。

○同・玄関・中（数日後）

山積みの段ボール。『とちおとめ』と書かれている。

○同・キッチン

キッチンの上には大量の苺のパック。

エプロン姿の和子、食パンの耳を切って

いる。

スマホからライブ配信の音声が流れる。

配信者の声「ゆうりちゃん。コメントありがとう。お悩み相談だね。えっと、普通に良いな
と思った彼氏が途端につまらなくなった」

和子「わかるう」

和子、苺のヘタを切る。

配信者の声「普通の優しさ。普通の世間話しかない。付き合う意味なんてあるのかな。も
っと刺激が欲しいのかと思った」

和子「だから普通ってなんだよ」

和子、ボウルに入った生クリームをかき混ぜる。

配信者の声「うーん。浮気しない彼氏の方が良くない？ 将来考えたら絶対大事にした方がいいよ。私の元カレなんてさ……」

和子、スマホの配信を止める。

和子「普通の人なんていないんだよ」

ヘタを切った苺を見つめて食べる。

和子「（大声で）もう苺飽きたー！」

○大学・入口

鉄雄、苺のサンドイッチを食べながら歩いている。

緊張した表情の和子、鉄雄の前に立つ。手には大きめなバスケット。

和子と鉄雄が見つめ合う。

和子、バスケットから包装された苺のサンドイッチを取り出す。

和子「あの、これ！ 食べてください！」

鉄雄、バスケットの中身を覗く。苺のサンドイッチが十個ほど入っている。

和子「お、おかわりもいっぱいあるので！」

鉄雄「えっと。人の作ったもの。無理っす」

鉄雄、和子の横を素通りする。

和子、鉄雄の肩とぶつかり、サンドイッチを地面に落とす。

鉄雄、和子を見無視して、歩いていく。

和子、サンドイッチを拾う。

鉄雄の背中を睨み、サンドイッチを投げようとす。

持ち上げたまま、投げないで固まる。

サンドイッチの包装を破り、食べるように食べる。

食べながら、包装されたビニールをくしやくしやにする。

○タイトル

『ストロベリー・サンドイッチ』

(終)